



愛知淑徳大学

ジェンダー・女性学研究所

INSTITUTE FOR GENDER AND WOMEN'S STUDIES

Newsletter

第43号

URL=<http://www.aasa.ac.jp/institution/igws/index.html>

発行年月日: 2017年3月15日
 〒480-1197 愛知県長久手市片平二丁目9
 Phone 0561-62-4111 ex.2498
 FAX 0561-63-9308
 E-mail: igws@asu.aasa.ac.jp

IGWS 第43号ニュースレター目次

- 第33回定例セミナー報告 1・2
- 第33回定例セミナー学生感想文 3
- 第10回「ジェンダー視点の卒業論文・卒業制作等」報告会 4
- 「ジェンダー・ダイバーシティ」プログラム開始、提供科目が5科目へ 5
- エッセイ:「私たち」として繋がる場をつくる 6
- エッセイ:ジェンダー視点で思うこと 7
- ランチタイム研究会を開催しました 8

2016年11月28日(長久手キャンパス)、29日(星が丘キャンパス)の2日間にわたり、第33回定例セミナー「小さなフェミニ心を否定しないで－『アナと雪の女王』を読み解く－」を開催しました。以下、その概要をご報告いたします。

第33回定例セミナー

小さなフェミニ心を否定しないで －『アナと雪の女王』を読み解く－

講師 斉藤 綾子さん
(明治学院大学教授)



今回の講師は、斉藤綾子先生。日本の映画研究における草分け的存在で、なかでもジェンダー・フェミニズム批評の方法を取り入れた映画研究を日本に紹介し、実践なさっている方です。筆者にとっては、この道を目指すきっかけになった憧れの存在である、斉藤先生のお話に久方振りに触れられる、ということだけで、夢のような時間でした。

お話は、ジェンダーに関する基本的な概念の説明に始まります。ジェンダーという概念が、社会的・文化的な文脈のなかで作られるイメージや物語と、いかに密接に結びついているのかということから、斉藤先生はおっしゃいます。「ディズニーをあなどるなかれ」。

従来のディズニー映画で描かれてきたヒロインたちは、シンデレラ・コンプレクスという言葉に象徴され

るような、受け身で、白馬の王子様を待ち続ける存在でした。しかしながら、時代の変化とともにヒロインの姿も変わりつつあります。昨今ではグローバル化の名のもとに“多様性”に価値をおく傾向が強まり、時代が「可愛い女と強い女の間を揺れ動く理想の女性像」を求めるようになってきているというのです。

ここで、斉藤先生は投げかけます。「21世紀に王子さまは現れるのでしょうか？」

答えはYesでもNoでもありませんでした。問題は「そこに『あるべき選択の自由』を与えられているか否か」ということだというのです。「あるべき選択の自由」とは一体どのようなことを指すのでしょうか。ここから今回のテーマでもある、映画『アナと雪の女王』の鮮やかな分析が展開されます。



『アナと雪の女王』は、日本では2014年に公開され、全世界で大ヒットとなったディズニーのアニメーション映画です。いわゆる「レリゴー (Let it go)」現象が世界を席巻したことは皆さんの記憶にも新しいのではないのでしょうか。アレンデール王国の王女エルサは、幼いころから魔法の力を持ち、強大化する自らの力を制御、封印するために誰とも触れ合わず閉ざされた城の中で生きることを強いられます。その後、エルサは、妹のアナと口論の末、人前で自らの力を暴発させてしまいます。王国から逃げ出し、魔法で氷の城を建てたエルサは、自分を抑えつけるのをやめて独りで生きていく決意をするのです。一方王国は、エルサの魔法により氷に閉ざされてしまい、これを解決すべく、アナがエルサのいる氷の城を目指します。

齊藤先生は、この映画をヒロインのエルサが「恐怖」に打ち勝って愛に変える物語として読み解き、主題歌の歌詞に注目します。

主題歌の Let it go は、直訳すると「それを解放して」という意味になります。それ＝it はエルサが自分の力に抱く恐怖とも取れますし、その恐怖は自らのもつ女性性そのものという捉え方もできます。したがって、この歌詞には、自らの女性性に対する恐怖から自己を解放するというフェミニズム的なメッセージが隠れているというのです。一方、Let it go の日本語訳は「ありのまま」。これは、自己解放というより自己肯定的なニュアンスが強く、オリジナルの歌詞にあった「フェミニ心」がずいぶん弱まった印象を受けます。

エルサがこの歌を歌いあげる氷の城の場面を眺めてみると、ほかにも様々なメッセージが隠されていることに気づかされます。エルサは先ほどの自己解放の歌を歌いながら、次々と扉を開けていきます。扉とそれを開けること、これはまさに、抑圧と解放の比喩として読みとることができます。また、エルサの背景に映り込む透き通った氷の天井は「ガラスの天井」として読み換えることも可能です。「ガラスの天井」とは、これまで女性が社会的権利を勝ち取ろうとする毎に見

えない透明の壁、すなわち家父長制の抑圧によって上昇を阻まれてきたことを意味する言葉です。エルサを阻むのは他でもない、エルサ自身の魔法の力です。そして、エルサの解放を助け、救い出すのは王子様のキスではなく、妹のアナの自己犠牲による愛なのです。アナがエルサに I love you と伝えると、エルサも自らの内に眠っていた愛の存在に気づき、氷に閉ざされた王国は溶解し、再生します。エルサのなかにあった自分自身＝魔法への恐怖がアナを触媒として愛に変わり、王国の救済へとつながったのです。



齊藤先生はフェミニズムとは決して他者をはねつけて闘うことではない。過去のフェミニストたちの「闘い」とは、「アナ雪」の姉妹のように、他者を寛容し個に社会的存在としての選択の自由を与えるための自己犠牲の闘いであったのだということを付け加えて講義を閉じられました。

現状を嘆いて立ち止まるよりも、自分の中にある「フェミニ心」を認めてやることで自己を解放し、自分にとっての幸せの形を見つけてほしい。齊藤先生の気さくな語り口と鋭い分析眼のなかに、そんな力強いメッセージを受け取りました。

(文責 IGWS 運営委員 小倉史)

愛知淑徳大学ジェンダー・女性学研究所主催「第33回特別セミナー」
 小さなフェミニ心を否定しないで
 「アナと雪の女王」を読み解く
 フェミニズムは怖いと思ってる人は、いまだに多いかもしれません。でも、たいていの人は自分の中に小さな「フェミニ心」を持っています。今回のセミナーでは映画『アナと雪の女王』をとっかかりに、この映画に見られるフェミニ心と、その社会的応用の大きさについて考えます。
 講師 齊藤 綾子
 愛知淑徳大学文学部国際文化学専攻准教授、および同専攻女性学専攻コーディネーター、著書に『神話と身体』、『森田天』、『光るに 神話と身体 森田天』、『みずすま』、『みずすま』など
 2016年 11月 28日(月)
 16:50～18:20 長久手キャンパス 8号館 815教室
 2016年 11月 29日(火)
 13:30～15:00 星が丘キャンパス 1号館 138教室
 ●問い合わせ先 ●
 愛知淑徳大学ジェンダー・女性学研究所、長久手キャンパス 8号館4階
 〒466-0292 愛知県長久手市 2500 E-Mail: igws@sd.ac.jp
 http://www.sd.ac.jp/inst/igws/index.html
 ●ポスター制作 ●
 愛知淑徳大学 メディアプロデュース学部 3年 星島由希
 入場無料

学生感想文

神野 太慎

私はジェンダーについての知識が浅く、これまでディズニー映画を深く観ることがなかった。しかし今回のセミナーを通して、『アナと雪の女王』がこれまでのディズニー映画のプリンセスがもつ「女らしさ」のイメージを変化させた作品であると聞き、改めて一から映画を見直したいと感じた。

現代社会においてディズニー映画の影響力は大きく、映画の中のプリンセスになりたいと思う女性は多いはずである。従来のプリンセスのイメージは白馬の王子様が来るのを待っている、受動的なものであった。しかし、近年はジェンダーに対する考え方に変化がみられるという。雪の女王エルサのように、プリンセスなのに特殊な能力を持った女性が主人公となっているこの映画では、女性は能動的である。つまり今までのプリンセスが持っていた受動的な「かわいさ」から能動的な「強さ」へイメージが変化したのだ。

女の子は女の子らしくという性の規範が変化していることを『アナと雪の女王』では表現していた。それについては主題歌「Let it go」からも考えられると講師の齊藤綾子先生は述べていた。あいまいな訳の日本語の歌詞と英語の歌詞ではその意味が異なっており、比較してみると違う印象を持った。日本語の歌詞はジェンダーにおいて重要な部分を排除し、上品に作っているように感じた。普段映画を見る際に日本語と英

語の歌詞を比較することはめったになく、この場合は映画の本来伝えたい内容を和訳で阻害してしまっているように感じた。同様に、齊藤先生は映画の中に出てくる「扉」についても述べていた。映画の中で扉を開けたり閉めたりする場面がよく見られた。これについては扉が解放と抑圧の比喻として扱われており、魔法を持っていることがばれてしまったエルサが氷の城に閉じこもるシーンでは、まさに自分を解放したエルサが、他者とのかかわりを断つ象徴として扉が使われていた。物語の終わり方としても、プリンセスが助けるのではなく、妹が姉を助けるという姉妹愛が描かれ、今までの典型的なプリンセス・ストーリーとは異なるように感じた。

『アナと雪の女王』ではジェンダーの縛りや現実に対する訴えが表現されており、ジェンダーに対する固定概念をなくさなければならないと感じた。しかしながら、現代社会では、いまだにエルサのような能動的な女性は正当な評価を受けていないように感じる。必要なことは主体的・能動的な女性をポジティブに可視化できるよう、社会のなかで偏見をなくすことだと私は感じた。また男女ともにこうあるべきだという固定的な考えを捨て、様々な生き方の選択肢を認めあうことであると感じた。

(文学部教育学科3年)

三俣 くらら

2013年に人気を博した映画『アナと雪の女王』に出てくる主人公のエルサは、雪の女王であるがゆえに持つ力のために、幼い頃から葛藤してきました。一人お城に住み、怪我をさせてしまったアナと会わないようにする、など強い力に抗う姿が描かれています。ちなみに、この映画はエンターテインメントとして、また主題歌の人気をもってして世界中多くの人に親しまれてきた作品です。今回のセミナーでは、この葛藤するエルサの姿は、自身がフェミニズムを意識し、こうでなくてはいけないという固定概念と戦う姿として描かれていることが分かりました。私を含め、多くの人たちが、「男性/女性らしく」という言葉を投げかけられたことがあると思います。この言葉を疑問視することは、私たちそれぞれの心の中にある、小さなフェミニズムを認めることだと知りました。

私自身、卒業論文で取り上げた作品がまさに「フェミニズム」と「抗う人々」の物語でした。どれも恋愛を通して、自身の人種や性別、家族関係、立場に縛られながらもそれらに抗う姿が描かれている作品でした。古いものでは1919年の映画『散り行く花』から近年では2015年の映画『キャロル』を取り上げています。ある種の固定概念が個人の人生に付きまとう

問題は、一世紀以上にわたり映画作品に取り上げられていることが分かります。映画には、“小さなフェミニズム”を認める要素が含まれ、表現されているものがあり、映画で表現される姿が時代を経るにつれ観客のもつ“小さなフェミニズム”に訴えるようになってきていると感じました。

「(主題歌の) Let it goというのは『大人』になることを受け入れること。」と齊藤綾子先生はおっしゃっていました。子供から大人になるにつれて、男性であること、女性であることの縛りや概念は強く、明確なものになっていきます。その中で、自分がどんな存在であるかを考え、固定概念に縛られることなく、自分らしさを受け入れていくことが大切だと感じました。

多くの人が知っている映画『アナと雪の女王』には、“小さなフェミニズム”と葛藤する姿が描かれています。このような姿は、映画をただ鑑賞するだけではなく、別の角度や視点で観ることで気付くことができるのではないのでしょうか。映画には、エンターテインメント性だけではなく社会や文化、人種や性など、様々な要素が混ざり合って描かれていることを再認識することができました。

(メディアプロデュース学部メディアプロデュース学科4年)

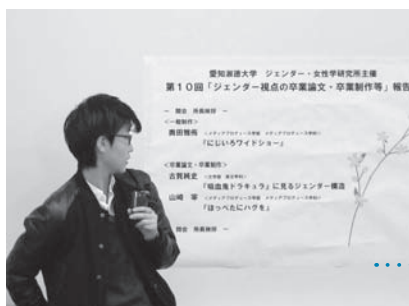
第10回

「ジェンダー視点の卒業論文・卒業制作等」報告会 開催

2017年1月25日（水）長久手キャンパス 827教室

1月25日(水)に、第10回「ジェンダー視点の卒業論文・卒業制作等」報告会を開催しました。今年度は、文学部より1名、メディアプロデュース学部より1名の参加がありました。また、卒業論文・卒業制作には該当しませんが、学生による、ジェンダーに関する取り組み事例として、授業で制作した映像作品の紹介をしていただく時間を冒頭に設けました（タイトルに「卒業論文・卒業制作等」と“等”をつけたのはそのためです）。

今回の発表と、参加者との質疑応答やディスカッションをとおして、各々の研究と学びがますます深まっていくのをダイレクトに感じられる時間となりました。以下に報告者をご紹介します。



【一般制作】

『にじいろワイドショー』

〈メディアプロデュース学部 メディアプロデュース学科〉 奥田 雅侑

【卒業論文・卒業制作】

『吸血鬼ドラキュラ』に見るジェンダー構造

〈文学部 英文学科〉 古賀 純史



『ほっぺたにハグを』

〈メディアプロデュース学部 メディアプロデュース学科〉 山崎 宰

報告会あとの茶話会でも、さまざまな議論が交わされました。



始まります!

「ジェンダー・ダイバーシティ*」プログラム

2017年度より本学学生に対してひらかれる「ジェンダー・ダイバーシティ」プログラム。学生たちは、提示された科目群から必要単位を取得することで修了を認められます。

本学の教育理念「違いを共に生きる」を具現化するものとして始まる当プログラムは、ジェンダー・ダイバーシティ関連科目を系統的に学ぶ道筋を学生に示し、その学習成果の証明書を発行することで、ジェンダー・ダイバーシティへの関心と学習意欲を喚起することを目的としています。プログラムの概要は次のとおりです。

プログラムの概要

◆必要単位数：16単位以上（必修2科目4単位＋選択6科目12単位以上）

〈必修科目：「ジェンダーと社会」、「女性学・男性学」各2単位〉

〈選択科目：以下より6科目12単位以上〉

学部 科目名称

教養科目：「比較文化」「国際交流」「日本国憲法」「入門文化人類学」「ジェンダー・ダイバーシティ表現演習Ⅰ」「ジェンダー・ダイバーシティ表現演習Ⅱ」「セクシュアリティとメディア」「思想としてのフェミニズム：性の多様性に至る系譜を学ぶ」

文学部：「国文学講義(6)近代Ⅱa」「国文学講義(6)近代Ⅱb」「文学批評Ⅰ」「文学批評Ⅱ」「特別支援教育論」「比較教育論」「国際理解教育論」

人間情報学部：「ユニバーサルデザイン論」

心理学部：「異文化コミュニケーション」「コミュニケーション障がい論」「発達障がいの心理臨床」

創造表現学部：「サブカルチャー論」「社会学概論」「批評理論Ⅱ」

交流文化学部：「地域理解3（人と社会）」「コミュニケーション論6（インター・カルチャー）」「交流文化5（多文化共生）」「交流文化2（国際理解教育）」

ビジネス学部：「ビジネスとジェンダー」「共生とコミュニケーション」（2018年度開講）

グロウコム学部：「Gender and Communication」（TOEIC500点以上が履修の目安）
「Multiculturalism in Japan」（TOEIC650点以上が履修の目安）

◆申請・手続き方法など、詳細はジェンダー・女性学研究所へお尋ねください！

*本プログラムで用いる「ジェンダー・ダイバーシティ」という表現は、経営理論でよく使われる「性的多様性」を意味する言葉ではなく、「性別に関する規範に捕われず、多様性を尊重すること」という、より広い概念を示す。

さらに!

ジェンダー・女性学研究所提供科目、5科目へ

同じく2017年度より、ジェンダー・女性学研究所提供科目が2科目から5科目へと増えることとなりました。いずれも教養科目として、すべての学部・学年の学生が受講できる点が大きな特徴です。科目名と授業の概要を次に示します。

ジェンダーと社会

歴史的、社会的、心理学的視点からジェンダーと社会のつながりを理解し、自由で多様な生き方のできる社会を探る。

女性学・男性学

男女についての定式化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を理解し検討する。

ジェンダー・ダイバーシティ表現演習Ⅰ

ジェンダー・ダイバーシティ表現演習Ⅱ

Ⅰ・Ⅱと連続して受講し、ジェンダー・ダイバーシティをテーマとする舞台作品を創作する。「Ⅰ」で参加者が相互啓発的な関係を築いて、ジェンダー・ダイバーシティの共通理解をもちながら上演台本を共同で創作し、「Ⅱ」ではⅠで創作した台本による上演を行う。

セクシュアリティとメディア

メディアで取り上げられる「セクシュアリティ」について、実際に起きた「事件」なども取り上げ、人権の視点から批判的に学ぶ。

思想としてのフェミニズム：性の多様性に至る系譜を学ぶ

「フェミニズム」という思想運動の歴史と思想を理解し、性の多様性実現へ向けた解放運動とのつながりについて主体的に考察する。



「私たち」として繋がる場をつくる

達 志保

SKIPは昨秋『SKIP 終活宣言 私たち NPO を解散します』（SKIP 編集委員会編著、風媒社発行、2016年）を刊行した。SKIPとは1993年に名古屋でモーニングコンサート（午前中の託児付きクラシックコンサート）の企画運営を始めた特定非営利活動法人である。

モーニングコンサート？と思われる方のために解説しておこう。コンサートというのは夜がお決まりだ。ところが子どもが小さいときは、夜の外出は難しい。子育て期は否応なく母親たちの活動範囲が狭められていく。でも午前中ならどうだろう。会場で子どもを預かってくれるならば、誰にも気兼ねすることなく、わずかな時間を子どもと離れ、自分だけの時間をつくることができる。「私たち」のこの企画に、母親たちから大きな反響があった。

それから20年、「私たち」として繋がることで、私ひとりではできないことを実現することができた。冒頭の本は、このSKIPの活動記録であり、解散宣言である。NPO設立に向けた本はこれまでも目にしてきたが、NPO解散と向き合った本は、たぶんこれが初めてではないだろうか。

これまで多くのグループがいつのまにか活動を休止し、フェードアウトしていくのを見てきた。だからこそ、私たちはSKIPの終活をしっかりとやってみようと思んだ。

解散にあたり、積み上げてきた活動実績とその記録を、ただ廃棄するのはもったいないというところから話は始まった。では誰に読んでほしいかということになったとき、思い出のためだけならば意味はないと思った。これまで解散の危機は何度かあった。それでもなんとか踏ん張った。そして20年、私たちは解散しようと思えるようになった。私たちはどこで解散を決めたのか。これからグループで活動を始めようとする人たち、いまNPOの活動をしている人たちに、私たちの経験を正直に伝えたいという思いが湧いてきた。

20年を経て思うのは、誰よりも自分自身がSKIPの活動に支えられてきたということだ。私ひとりではどうしようもならないことも、「私たち」として繋がることで動き出すことができる。その経験と自信はSKIPのメンバーに新たな一歩を踏み出させた。私は子どもの幼稚園入園を機に、大学院に進学した。大学院でも子育てと学生生活、旧姓使用など、新たな問題

が浮上した。私が不便に思うことは私だけの問題ではなく、「私たち」の問題であること、その問題にぶつかったときに目を閉じてしまったらその問題は次の世代にそのまま譲り渡すことになる。だからできるだけ、異見は口にしてみよう。きっと「私たち」として繋がってくれる人がある。SKIPでの経験から、新たな場でも繋がることのできた。

本の話に戻ろう。編集作業は、頭を抱えたこともあったが、いつしか私たちひとりひとりが納得できる言葉を探し出していく作業にのめりこみ、結果2年半をかけ、数十回の編集会議を重ねることになった。本にはSKIPで開催した上野千鶴子さんの講演会・座談会の記録も収めた。私たちの活動の行末を案じてくれた人は他になかったからである。解散にあたり、上野さんからはNPO法人ウィメンズアクションネットワーク（WAN）のWeb上の図書館に、SKIPの全会報を所蔵することを提案いただき、実現することができた。

SKIPの活動を始めたころから数えると、もうすぐ四半世紀になる。子連れで出かけられる場所は確実に増え、託児というシステムもほぼ定着した。私たちがモーニングコンサートという他にはない託児付きのイベント企画に燃えた時代は終わった。ではいま、子育て中の母親たちは以前よりもずっといい環境に身を置けているのだろうか。子育て中の母親たちは復職までの期間をどのように子どもと過ごすかに心砕き、復職後は仕事と子育てとの両立に悪戦苦闘の日々だ。モーニングコンサートだなんて随分優雅な時代でしたねと言われかねない。社会はとても良い方向へ動いているとは言い難い。憂えるのは目の前の不便さへの異見の声が、以前よりずっと出しにくくなってきていることだ。いま問題に立ち向かっている子育て中の人たちに、大きなエールを送りたい。それは間違いなく、これからも「私たち」の問題なのだから。

（1988年度

文学部国文学科卒業）
（豊田土地改良区資料室長、
本学非常勤講師）



エッセイ ジェンダー視点で思うこと

武山 英磨



平成 27 年 4 月から本学に着任して 2 年が過ぎようとしています。今年度からジェンダー・女性学研究所運営委員として委員会をはじめ関連行事・セミナー等に出席させていただきましたが、毎回、新鮮な情報が得られる有意義な機会として、これまで多くのことを学ばせていただきました。私には、ジェンダーについて過去に少々苦い経験があり、再び本学でジェンダーについて考える機会を得られたことは貴重なご縁と感じています。

私は、大学院を修了した後、そのまま所属講座の助手として勤務した足掛け 10 年間、フィリピン、タイなどアジア諸国を中心に参加型労働安全衛生活動を行ってきました。この活動は、事業主や労働組合を対象とした職場改善セミナーの実施を通して、各事業所での自主的な職場環境改善を促し、産業疲労の軽減や労働災害の防止、快適な職場環境の形成を推進するもので、主に労働生理学、人間工学的な観点から職場改善の評価を行っていました。私が助手になって 1 年目の夏、講座の教員や研究員らとタイのバンコクでの調査活動をしていた際に、恩師である教授の知り合いが国際労働機関 (ILO) アジア太平洋地域総局に勤務していた関係で、同行していた医学部生や大学院生を引率し、訪問する機会がありました。施設の見学を終えた後、ILO の担当者から重点課題の一つとして取り組んでいる児童労働についてプレゼンテーションがあり、その後、意見交換を行いました。フィリピンで児童労働の現状をある程度見てきた経験と、これに備え準備をしていたこともあり、ディスカッションは私にとって順調に進み、安堵しておりましたが、それもつかの間、次第に話題は女性労働、ジェンダーへと移っていきました。その時、引率した一人の女子学生が労働環境におけるジェンダーの問題について熱心に語りはじめ、議論が大いに盛り上がりました。私の方は、予想外の展開に少々戸惑いながら、意見を求められると冷汗をかきながら議論に参加したことを記憶しています。この後、その女子学生から聞いたのですが、将来、医師として結婚、子育てをしながら男性医師と肩を並べて活躍するには、今の女性医師を取り巻く労働環境はあまりにも過酷であり、今の社会をどう変えていけばよいか日頃から考えてきたとのことでした。この出来事は、快適職場形成を目指して、疲労や負担軽減に取り組んできた私にとって、ジェンダー視点も含めた多面的なアプローチが重要であることを気づかせてくれた貴重な経験であったと同時に、自らの見識の

低さを再認識した苦い経験でもありました。

ご存知の方も多いかもしれませんが、昨年 10 月に世界各国の男女平等の度合いを指数化した世界経済フォーラムの 2016 年版「ジェンダー・ギャップ指数」が公表され、日本の順位は調査対象 144 カ国のうち 111 位だったという報道がありました。前年の 101 位からランクダウンし、過去最低の水準になったということです。この指数は、女性の地位を教育、健康、政治、経済の 4 分野で分析しており、これらの総合点で評価されています。平均余命では世界 1 位であった一方で、労働賃金、経営管理職、専門職、国会議員数では、男女間に差が大きいと評価され、世界ランクがいずれも 100 位以下で、それ以外の項目でも 50 位を超えるものは皆無であったそうです。日本の 111 位という結果は、東アジア諸国のなかで最下位の韓国に比べて、わずかに上位であったものの G7 諸国とロシアを含む先進 8 ヶ国の中では大きな差をつけての最下位という悲しい結果でした。これが、一国における真のジェンダー・ギャップを示す信頼性の高い指標か否かは、意見の分かれるところのようですが、少なくともわが国の女性の社会進出については、世界の先進主要各国に比べ大きく水をあけられていることは現実として直視しなければなりません。

先の国会では、待機児童問題で白熱した議論が行われ、マスコミに取り上げられたこともあってか、多くの国民の関心を集めたことは記憶に新しいところです。居並ぶ男性閣僚を前に、女性議員が意気揚々と質問に臨む様子や議論の中身を見ると、男女共同参画社会とは言いながら、男性主導社会から抜け出せない、日本の現実を見ているようで、まさにジェンダー・ギャップを映す鏡のように感じました。待機児童問題に限らず、少子化、所得格差、夫婦別姓 医師不足など、わが国が抱える諸問題は、同列に並べて議論することはできませんが、その根底には目に見えない、そして容易に破ることができないジェンダーの壁があることに気づかされます。

ジェンダー視点の眼を開かせてくれたタイでの出来事から早 10 年以上が経過し、この間、私は何を考え、何を行ってきたか。閉じかけたジェンダー視点の眼を再度、開かせてくれた本学でのチャンスをこれから大切していかなければと心に誓いながら日々学ばせていただいております。

(本学健康医療科学部教授)

ランチタイム研究会を開催しました

今年度は9回、お昼休みに教職員の方にお集まりいただく「ランチタイム研究会」を開催しました。本研究会は、研究所の今後の研究活動の方向付けに資することを主目的として開催しており、教職員の学び合い・情報交換の場ともなっています。引き続き話題のご提供・ご参加をお待ちしております。以下に講師のお名前、およびお話しいただいたテーマをご紹介します（敬称略）。

- | | |
|--|---|
| 第1回 渡辺かよ子（本研究所所長、文学部教授）
「最近の男女平等参画に関する大学生の意識：
名古屋市男女平等参画推進会議による調査結
果報告書 2016年より学ぶ」（5月30日） | 第6回 福本明子（本学グローバル・コミュニケーション学部教授）
「仕事と育児とジェンダーと」（11月21日） |
| 第2回 大西誠（本学創造表現学部教授）
「護身術はどう使えるか」（6月14日） | 第7回 稲垣尚恵（本学健康医療科学部准教授）
「『しくじり人生』もまんざら悪くない」（12月14日） |
| 第3回 清水裕二（本学創造表現学部教授）
「男性にとっての子育て」（7月7日） | 第8回 大野光子（本学名誉教授）
「第二波フェミニズムと研究者人生
—自分育て・子育て・孫育て」（12月20日） |
| 第4回 柳澤幾美（名古屋外国語大学他非常勤講師）
「日本からアメリカに渡った「写真花嫁」たち」（9月30日） | 第9回 小野美和（本学福祉貢献学部講師）
「“姫”化する母親たち
～ママと先生のつぶやきから考える」（1月10日） |
| 第5回 新美明夫（本学心理学部教授）
「子育ての現役を離れてから振り返ると……」（10月13日） | |

施設利用案内

どなたでもお気軽にお立ち寄り下さい。一人でもお友だちと一緒にでも大歓迎です！

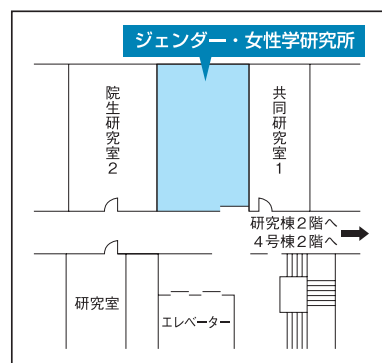
開室日 毎週月曜日～金曜日 **開室時間** 9:00～17:00

場 所 愛知淑徳大学長久手キャンパス8号棟 4階エレベーター前

案内図



■長久手キャンパス8号棟 4階



編集後記

紙面でご案内しましたように、本学では来年度から、ジェンダー・女性学研究所の提供科目が増えます。教養科目の中に5科目が並び、ジェンダーに関するより充実した学びの場を提供できるようになります。合わせて来年度より始める「ジェンダー・ダイバーシティ」プログラム（P5参照）も含め、学生たちの学び・気づきがより深まることを期待しています。皆さまにも是非、ご関心をお寄せくださいましたら幸いです。

（中村奈津子）

ASU・IGWS2016年度

運営委員 _____
 渡辺かよ子(所長兼) 石田好江 伊藤知子
 小倉史 小野美和 久保田絢 坂田陽子
 佐藤朝美 武山英麿 平林美都子

事務担当 _____
 中村奈津子